

大学発アーバンイノベーション神戸 研究成果報告書

令和 3 年 5 月 28 日

申請区分	一般助成型	課題番号	A20113
研究課題名	「神戸」という教育リソースを活用した文化圏滞在型留学プログラムの提案		
研究期間	令和 2 年度まで		
研究代表者	氏名	谷川依津江	
	大学等	甲南大学	
交付決定額(研究期間全体)		408 千円	

○研究成果の概要（400 字以内）

コロナ禍収束後に再び留学生を神戸に呼び戻すために、コロナ禍において実施可能なオンラインプログラムに必要な5つのポイントを明らかにした。それらは、①日本語学習の準備だけでなく、留学後の生活においてもスムーズなスタートができるような準備を行う、②自律的な学習ができるような構成にする、③留学先に関連する人・もの・ことに関する内容が含まれる、④留学先に関連する日本語母語話者との交流・会話ができる機会を含む、⑤共に日本語を学ぶ仲間の存在を感じることができる、の5点である。また「神戸」という教育リソースを活用した「留学生を神戸に呼ぶため」のオンラインプログラムの共有を通して、日本語教育関係者のネットワークを構築し、コロナ収束後を見据えた地域リソースの活用方法についてのアイデアの共有や意見交換をすることができた。

○研究成果の学術的意義や社会的意義（200 字以内）

世界的なコロナ禍により著しく留学の機会が制限される中、留学希望者の学びを止めないためにオンラインでの学習やバーチャル留学が盛んになった。しかし日本に滞在せずしては得られない経験や学びがあることも事実である。本研究によって留学の代替案としての急場しのぎのオンライン学習ではなく、収束後の来日へと繋がるオンラインコースの効果の検証ができたこと、また実践例を提示できたことに学術的、社会的意義がある。

1. 研究開始当初の背景

2020 年 3 月頃から新型コロナウイルスに関わる入国制限措置により留学生が来日できなくなり、各大学の留学プログラムや日本語学校の留学生数は激減した。一方、オンライン技術の普及により、バーチャル留学やオンライン国際交流プログラムが台頭し、従来の留学のイメージが変わり始めた。オンライン学習により、学習環境が確保され、移動の制限がある中でも国際的な交流が行われていることは評価に値するが、同時に「留学」の意義が曖昧になってしまった。このことからコロナ収束後に、「なぜ日本に留学してまで、日本語を学ぶ必要があるのか」と留学することを躊躇する学生が増えるという懸念が生じた。そしてそれは神戸市の留学生数の減少にも直結し、国際性にあふれる文化交流を目指す神戸市にとっては大きな損害になることが予測された。

そもそもコロナ禍以前も、留学生の多くは東京をはじめとする関東圏に留学する傾向が強かった。2018 年度の JASSO の調査(表1参照)によると、近畿圏の留学生は 52,926 人と全国の約 17 パーセントであった。さらに兵庫県内の留学生数は 11,146 人と大阪府内の留学生数の約半分であり、京都府内の教育機関に在籍する留学生

数 13,230 人と比べても約 2 千人下回っていた。また、2019 年 5 月時点での神戸市の留学生は 4,153 人にすぎなかったことを考えると、コロナ禍終息後を見据え、留学生確保のための対策を立てていく必要があると考えた。

8. 地方別・都道府県別留学生数

(人)

地方名	留学生数	構成比	都道府県	留学生数		地方名	留学生数	構成比	都道府県	留学生数	
北海道	3,923 (3,454)	1.3% (1.3%)	北海道	3,923	(3,454)	近畿	52,926 (45,526)	17.7% (17.0%)	三重	1,458	(1,208)
									滋賀	489	(433)
									京都	13,230	(11,219)
									大阪	24,751	(21,683)
									兵庫	11,146	(9,398)
東北	6,375 (6,041)	2.1% (2.3%)	青森	382	(330)	中国	11,326 (10,108)	3.8% (3.8%)	奈良	1,413	(1,216)
			岩手	360	(315)				和歌山	439	(369)
			宮城	4,137	(3,975)				鳥取	287	(207)
			秋田	427	(431)				島根	308	(269)
			山形	293	(265)				岡山	3,331	(3,070)
関東	167,688 (149,815)	56.1% (56.1%)	福島	776	(725)	四国	1,826 (1,601)	0.6% (0.6%)	広島	4,656	(4,089)
			茨城	6,097	(5,547)				山口	2,744	(2,473)
			栃木	3,236	(3,019)				徳島	441	(375)
			群馬	7,882	(6,087)				香川	547	(476)
			埼玉	12,097	(10,340)				愛媛	631	(538)
中部	23,891 (21,884)	8.0% (8.2%)	千葉	13,084	(11,550)	九州	31,025 (28,613)	10.4% (10.7%)	高知	207	(212)
			東京	114,833	(103,456)				福岡	19,296	(17,519)
			神奈川	10,459	(9,816)				佐賀	778	(646)
			新潟	2,296	(2,266)				長崎	2,062	(1,914)
			富山	697	(658)				熊本	1,159	(1,114)
			石川	1,942	(1,919)				大分	3,831	(3,630)
			福井	478	(412)				宮崎	552	(500)
			山梨	1,039	(1,042)				鹿児島	1,180	(1,075)
			長野	1,652	(1,518)				沖縄	2,167	(2,215)
			岐阜	1,937	(1,952)				計298,980 (267,042)100.0% (100.0%)		
静岡	3,230	(2,780)									
愛知	10,620	(9,337)									

()内は平成29年5月1日現在の数

※大学の学部等が複数の都道府県に所在している場合、事務局本部が所在する都道府県にまとめて集計している。

表 1 地方別・都道府県別留学生数

2. 研究の目的

人類が今後しばらくコロナウィルスとの共存を余儀なくされるという見通しのもと、オンライン授業の可能性と限界を探るとともに、現地滞在型留学ならではの日本語習得の成果を過去の留学生や教師・関係者の証言から分析する。また、神戸の自然、歴史、文化、産業や留学生を取り巻くコミュニティーを日本語学習素材として用いたオンライン留学準備コースを開発し、現地滞在型留学の地としての神戸の魅力を伝え、コロナ収束後に神戸への留学を希望する日本語学習者の獲得を目指す。また、留学生招致のための日本語教育関係者のネットワークを創設する。

3. 研究の方法

まずは 2020 年 8 月に行われたカナダ日本語教育振興会のオンライン共有会のラウンドテーブルにて、カナダから日本への留学生の送り出しを担当している教師への投票によるアンケート調査を行った。この調査は、話題

提供者として出席した研究代表者と研究分担者が、Zoom の Poll 機能を用いて、その場の参加者に投票を呼びかけるという形で行なった。

また同時期に、カナダのビクトリア大学から甲南大学の夏季日本語集中講座に参加したことがある学生にオンラインによるアンケート調査を、また甲南大学国際交流センターの短期留学プログラムに参加したことがある留学生に対してメールまたは Zoom によるインタビュー調査を行い、その結果から、オンライン留学前準備コースの目的を定め、その開発を行なった。

その後、実際に甲南大学の海外協定校で日本語を学ぶ学生たちに当コースへの参加を呼びかけ、その修了率やアンケート調査により参加者の満足度を調査した。またコース終了後に、他機関に所属する日本語教師 8 名、以前 Year-in-Japan プログラムに参加していた留学生 3 名にも、このコースのコンテンツに関するフィードバックを求め、オンライン留学前準備コースの効果について検証を試みた。

オンライン留学前準備コースの内容に関するフィードバックでは高評価を得られたが、実際のコースの修了率が 20%と低かったこともあり、コースのさらなる改善を目指す必要性を認識した。そのため、甲南大学海外協定校で日本語を学ぶ学生に 2020 年 12 月から 2021 年 1 月にかけて Google フォームでアンケート調査を行い、8校 69 名の学生から回答を得た。このアンケート調査では、学習者がオンラインコースで学びたいと思っているトピック・テーマ、またどのような活動を期待しているのかを調査した。

以上のような取り組みとアンケート・インタビュー調査から得られた結果から、神戸への留学を希望する学生を獲得するための日本語学習プログラム作成に関する提案を行う。またこの結果をもとにした取り組みの実践例と、コロナ禍収束後の留学についての調査、情報共有のための日本語教育関係者のネットワークづくりについても述べる。

4. 研究成果

カナダ日本語教育振興会のオンライン共有会で、コロナ禍収束後に日本への留学を希望する学生数がどうなると思うかという質問をしたところ、37%の参加者が「減ると思う」と答えた(図1参照)。コロナ禍において、ロックダウンが行われていた中での質問であったので、先が見えず、「減ると思う」「分からない」と答える参加者が多いのは当然の結果であったと思う。しかしそんな中でも「増えると思う」「変わらないと思う」という答えも半数近くを占めていた。その答えの詳細として、参加者の意見を聞くために用意したスプレッドシートに、「次年度の日本への留学を希望している学生からの問い合わせがあった」という書き込みがあった。コロナ禍においても、日本への留学を希望している学生がいるということは大きな励みとなった。

過去の留学生へのインタビュー調査では、「留学経験において得られたものは何であったか」、「どのようなとき

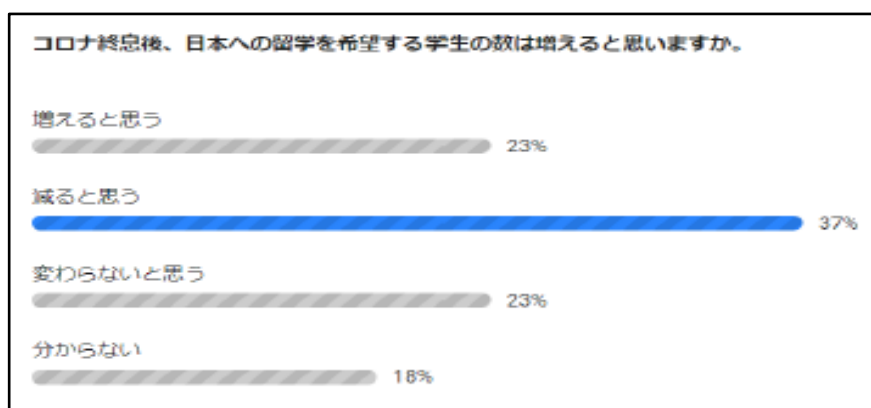


図1 ラウンドテーブル参加者による投票結果

に日本語力が伸びたと感じたか」、「日本での生活で感じたことや学んだものは何であったか」を調査したところ、留学を経験した学生は①日本語の上達や自分の能力が日本語社会の中でどの程度のレベルに達しているか、客観的に判断する力の獲得、②生活経験を通して得た様々なコミュニティとの繋がりの中で予期せぬ出来事と出会いを繰り返すことで人間的、そして日本語話者としての成長ができたと感じていることがわかった。この結果

に基づいて来日後の①生活のスタートをスムーズにするための準備、②日本での日本語学習の準備の2点を目的としたオンライン留学準備コースの開発に取り掛かった。

このオンライン留学準備コースは、オンラインツール Padlet を用いて動画教材と課題の配信を行った。学習者は動画教材を見た後に課題に取り組み、日本語担当教師との予約制の個別同期クラスにて課題に関するフィードバックを得、口頭練習を行なった。コース全体の目指すところは、学生が自ら選んだコースに自分のペースで取り組むことができ、それによって田中他(1993)が述べるように、学習者が自らのニーズやレディネスについて認識を深め、学習目標を意識化して自律的に学べるようになることである。また動画教材には、研究代表者・研究分担者が勤務する甲南大学や、甲南大学の所在地である神戸市にまつわる人・もの・ことを教材リソースとして用いることとした。これは留学前から、留学環境で得られるリソースをオンラインで提供することで、日本語学習だけでなく留学先に関する動機付けや、留学時に授業以外のリソースに目を向けられるよう準備をするという意図があった。他にも、島崎他(2017)や佐々木・河合(2019)に指摘されているように、留学時の不安や異文化接触に対する戸惑いの軽減のために渡日前の日本語や大学・生活環境に関する情報の提供の必要性が認められるという理由もあった。

生活面をサポートするコースの教材として、ゼロ初級者向けには大学や日常生活で用いる挨拶表現を練習する動画を、既習者向けには神戸および甲南大学にゆかりのある人々へのインタビューを素材にした動画を作成した。日本語学習のサポートとして、ゼロ初級の学生にはひらがなとカタカナの読み方と書き方を学ぶ動画教材を、そして既習者向けとして漢字の復習、日本語のバリエーションの説明(方言、若者ことば、敬語表現など)、和訳の練習に特化した動画教材を作成した。それぞれの動画教材には神戸の人々や景観などを用い、神戸に留学することの期待感や日本語の学習動機の維持・促進につなげることを目標とした。9～10月を動画教材の作成期間とし、全部で6コース(各コースには5～10回分の動画教材が含まれる)からなるオンライン留学準備コースを完成させた(表2参照)。

	生活面	言語面
ゼロ初級者向け	■あいさつ Greetings 様々な場面、人との挨拶	■ひらがな&カタカナ Hiragana & Katakana ひらがな・カタカナの読み方、書き方、 成り立ち、カタカナ使用のルール
既習者 (初中級以上) 向け	■会ってみたい日本の人々 Getting to know people in Japan 神戸または甲南大学に関わりのある人々 のインタビュー&留学生へのメッセージ	■漢字を見つけて楽しもう Fun Kanji! 神戸に見る漢字 ■いろいろな日本語 Variations of Japanese Language 日常に用いられる日本語のバリエーション： 方言、敬語、若者ことば等 ■和訳トレーニング Working on Translation 和訳の練習

表2 オンライン留学前準備コース概要

「ひらがな&カタカナ」コースでは、ひらがな・カタカナで表記された駅名や街中の看板等を読む練習に取り組んだ。また「ひらがな&カタカナ」コースでは六甲山や須磨の海などの神戸の景色から漢字の成り立ちを説明した

り、神戸で作られているお酒のラベルに使われている漢字を紹介したりするなど、日本語が実際にはどのような形で街中に現れるかを実感してもらう機会を多く設けた。「会ってみたい日本の人々」では、インタビュー協力者に自分の職業や日々の生活について話してもらった。動画の最後では、これから来日する留学生にどのような経験をしてもらいたいかなどを伝えてもらった。「いろいろな日本語」では、甲南大学国際交流センターのスタッフをアニメのキャラクターに仕立て、オフィス内外での会話を通して日常会話に現れる方言、若者ことば、敬語表現などがどのように使われるかを紹介した。

コース登録者 10 名のうち、修了者は 2 名で修了率は 20%と低かったが、その理由は大学の通常授業との両立が難しく、継続が困難であったことが修了者へのアンケート調査の結果から分かった。動画教材に対する評価はとて高く、「興味深い」「留学前に大学を知ることができてよかった」という意見があげられていた。時差等に配慮した個別同期クラスも「丁寧なフィードバックが得られることがいい」という意見があがっていた。しかし、他方で修了率が低かったのは、他の参加学生との交流の機会がないことが原因の一つなのではないかと思われる。

フィードバックを求めた日本語教師と元留学生からもコース全体を通しての統一感や構成の完成度の高さを評価するコメントがあった(森川 2021)。他にも「日本留学への憧れの火を消さない」という目的が伝わる、来日後に大学や地域コミュニティに参加する動機付けになるといった、コース作成の目的が明確な動画教材となっている点に関しても高評価を得た。ただ解説部分や課題などが難しすぎると判断する教師や、作成時にターゲットとしていたレベルよりも高いレベルの学生が「ちょうどいいレベル」だと判断した動画や課題もあったため、この点においては改善が必要であると思われる。しかし作成時に目的の一つとして掲げていた「渡日前に大学や生活環境に関する情報を提供する」ことは達成できた。

オンライン留学前準備コースの実践後、コース修了率が低かった理由を明らかにし、またさらなる改善のためのヒントを得るため、甲南大学海外協定校で日本語を学ぶ学生に Google フォームでアンケート調査を行った。甲南大学が提供するオンラインコースにどのようなコンテンツを希望するか、自由記述の形で答えてもらったところ以下のような結果となった。69 名の回答の内、24 名(約 35%)が神道や方言、伝統文化などを含む「文化」に関心があること、また 22 名(約 32%)がメールのやりとりなどを含めた日本語母語話者との交流、日常会話の練習など「日本語を話す機会」を希望していることが分かった(表3参照)。オンライン留学前準備コースでは甲南大学や神戸市にまつわる人・もの・ことがリソースとして用いられていたため、何らかの形で「文化」に触れることができていたが、「日本語を話す機会」に関しては、日本語担当教師との個別同期クラスでしか話す機会が得られなかった。また同期型授業が個別クラスのみであったことも、修了率が低い原因として考えられる。Murphey (1998) が述べるように、共に学ぶ級友が模範を提示する(Near Peer Role Model)ことによって、学習者は自分なりの方法で学習言語を話そうとするきっかけにすることができる。このことから、できるだけ複数の学生が参加する同期型授業が行われることが望ましいと思われる。

以上のことから、留学前の日本語学習者への働きかけとしてオンラインコースを提供する際に、①日本語学習の準備だけでなく、留学後の生活においてもスムーズなスタートができるような準備を行う、②自律的な学びができるような構成にする、③留学先に関連する人・もの・ことに関する内容が含まれる、④留学先に関連する日本語母語話者との交流・会話ができる機会を含む、⑤共に日本語を学ぶ仲間の存在を感じることができる、の5つの点に留意する必要があると結論づけられる。現在注目を浴びているオンラインのみで完結する語学学習やバーチャル留学とは一線を画す、オンラインでの学習の先に文化圏滞在型留学が繋がっているオンラインコースには以上のような点が含まれていることが望ましいと言えるだろう。

	甲南大学が提供するオンライン授業で学びたいトピックやスキルはありますか。
1	(blank)
2	(blank)
3	I think maybe being able to learn more about different areas in Japan and words associated with those areas could help improve knowledge in the Japanese language.
4	I would really like to learn more about the culture than just what was in the textbook
5	Something very traditionally Japanese such as Tea ceremonies or Japanese Knife forging.
6	I believe we covered quite a bit about Japan in our class, I think it would be interesting to know some good Japanese authors once I get a bit better at reading Kanji
7	Being able to talk like a local!
8	How to use polite form correctly in daily life
9	Not really, maybe just listening and speaking in general
10	I would like to get better at grammar structures and kanji.
11	Quicker thought process (in Japanese) and quicker speaking speed.
12	I think having something like a katakana or hiragana writing practice book and having to write more words down during class would help
13	Japanese Social Media Culture and Language
14	Art of the Sword
15	I would like to continue practice my speaking skills in Japanese through distance learning
16	None
17	I think it would be easy to do interpersonal writing with distance learning; people who are taking Japanese classes could email back and forth with English learners so they both get practice with real people.
18	Japanese art and culture, Japanese business
19	Japanese language and culture.
20	I would be interested in speaking to native speakers
21	Traditional Art and Performing Art History
22	Learn casual conversation
23	practice language
24	not really
25	Japanese Culture
26	Would love to learn academic Japanese/Japanese related to specific fields of interest
27	practice language
28	Grammar and conversation
29	I do not know what courses are offered but I am interested in learning calligraphy and about the Jomon people.
30	I really want to learn more about Keigo.
31	擬声語
32	Conversational Japanese
33	Non-academic language
34	no
35	no
36	I really want to learn more about Keigo.
37	All my teachers are female, and I've been told "that makes a lot of sense", but I have no idea why...
38	fluency, kanji
39	Differences in dialects!
40	Culture
41	Real time conversation
42	Game culture, Travel, Influential Japanese people, Cuisine
43	Japanese Conversations in daily life
44	Japanese Conversations in daily life
45	Differences in Kansai vs Standard dialect
46	Traditions to follow in order to be polite in formal settings.
47	no
48	Grammar
49	Minorities in Japan
50	特に俳句とか短歌には興味があります！
51	Kanji, grammar
52	How to better explain things (for example if I don't know a word, how to explain it without using english)
53	General language practice
54	Keigo
55	Kanji reading + writing
56	Modern Culture (2010s and 2020s), Genetics Research in Japan, Japanese Colloquialisms (Kansai-ben vs other dialects), and maybe also a like.... day-in-the-life of a young adult in Japan type course?
57	Social etiquette and how to use humble vs formal speech
58	Not sure how to explain it exactly, but some cultural stuff that most foreigners wouldn't know/some things that aren't really talked about much but still well-known? Like maybe mannerisms or bits of knowledge that might help you fit in more naturally in Japan? Sorry this is a bit vague...
59	日本人とよく話したいと思います。
60	Japanese Language, origami, flower arrangements
61	Interpretation, voice acting, Japanese culture
62	I would love have some form of Japanese language class
63	General language practice
64	Learning about modern Japanese cultural/societal norms.
65	Shinto in Modern Japan
66	Japanese-language skills
67	Shinto in Modern Japan
68	Kanji
69	best practices for living in Japan as a foreigner, polite conversation practice

表 3 協定校の学習者がオンラインで学びたいこと(黄色:文化、緑:会話・交流)

この結果をもとに、海外で日本語を学ぶ学生と日本人学生の交流の場を設けるため、またオンライン学習の効果を検証するため、オンライン短歌ワークショップ「Kobe through TANKA」を2021年2月28日に実施した。これは神戸を題材とした短歌作成のワークショップで、アメリカ、カナダ、台湾の3カ国で日本語を学ぶ学生が日本人学生と協働して短歌の作成にあたった。企画に賛同してくれた神戸在住の方々から短歌の題材となる写真や動画を募り、参加学生たちにワークショップ1ヶ月前からオンラインツール Padlet を使って公開した。他にも短歌作成に関する動画や、神戸の歴史や街に関する基本的な情報をまとめた動画教材を提示し、ワークショップ参加前に神戸についての情報を得る機会を設けた。ワークショップ当日の進行には表4に示すように、個人ワークとグループワークの両方のワークを設けた。

活動内容	参加形態
短歌作成の基本の復習	参加者全員
自己紹介	参加者全員
短歌の穴埋めワーク	個人ワーク→各グループ内で共有
穴埋めワークの結果を全員で共有	参加者全員
写真から短歌を作る方法の説明	参加者全員
写真を選んでキーワードを考える	グループワーク
短歌作成のヒント	参加者全員
短歌作成	グループワーク
各グループの短歌を共有	参加者全員
講師による講評	参加者全員

表4 ワークショップ進行表

ワークショップの最後には、甲南生と参加学生を複数のグループに分け、神戸の方々に提供していただいた写真から得た印象や、自分なりに考えたストーリーをもとに、グループで短歌作成に取り組んだ。出来上がった短歌は、写真や動画を提供してくれた方々とSNS上で共有した。

事前登録があった海外の学生数は20名であったが、当日の参加学生数は海外学生が10名、日本人学生が5名であった。ワークショップ後のアンケート(日本人学生を含む11名が回答)では、全員がワークショップに満足した、と答えていた(図2参照)。ワークショップ中のどのパートが一番楽しかったかという質問には、「グループ

1) ワークショップの満足度を教えてください。Please rate your level of satisfaction with the workshop
11件の回答

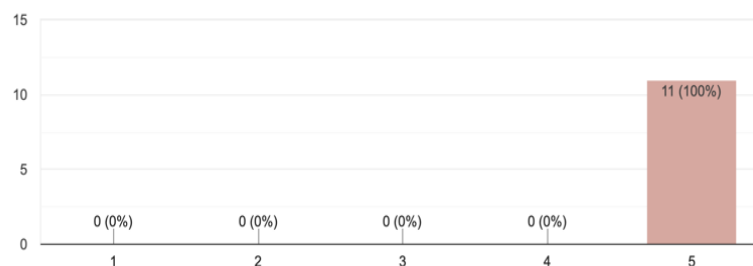


図2 オンライン短歌ワークショップの満足度

3-1) ワークショップのどのパートが楽しかった、または充実していましたか。Which part of the workshop were enjoyable or fulfilling?

11 件の回答

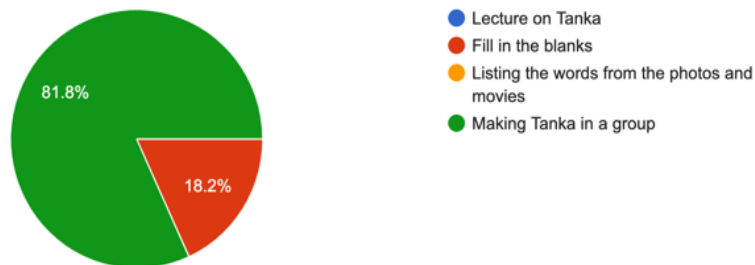


図3 オンライン短歌ワークショップの楽しかったパート

での短歌作成」と答えていた学生が 81.8%と最も多かった(図3参照)。その理由として「みんなと一緒に作るのは楽しい」「いろいろなアイデアが出るのがいい」「助け合えるのがよかった」など、他学生との協働に関するコメントが記述回答10件のうち6件であった。反対にワークショップの中で難しかったパートは、54.5%の学生が、一部が空欄になっている短歌を読んで、どのような語彙が入るかを考える穴埋めワークであると答えた(図4参照)。理

4-1) ワークショップのどのパートが難しかった、または楽しめませんでしたか。Which part of the workshop were difficult or unenjoyable for you?

11 件の回答

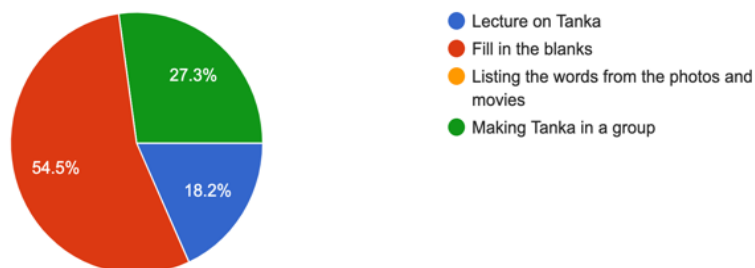


図4 オンライン短歌ワークショップの難しかったパート

由としては「難しかった」「語彙を思い付かない」など日本語力にまつわるコメントが得られた記述回答10件中7件であった。これはまずは入る単語を個人で考えてからグループ内で共有するという個人ワークであり、助け合うことができなかったからだと思われる。以上のようなことから、やはり「交流」の機会がオンラインにおいては欠かせない要素であることが分かった。

神戸の印象についての質問には、「美しい街だと思った」「写真で見た場所にぜひ行ってみたい」「日本人学生と話すことがよい学びとなった」という感想を述べており、4名の学生が「いつか行きたい」「必ず行きます」と答えていた。神戸についての情報提供と、それを用いた短歌作成という文化的取り組み、そして日本人学生との交流という要素が、有効に働いたと言えるのではないだろうか。また学生たちが作成した短歌を写真や動画を提供してくれた神戸の方々と共有したところ、「学生さんたちのピュアな感性が表現されている」「コロナが早く収束して留学生が来日してくれることを願う」という前向きな感想をもらった。

この研究の締めくくりとして、コロナ禍後の留学についての情報共有のための日本語教育関係者のネットワークづくりのため、2021年2月27日に開催した「新しい留学プログラム in 神戸」教師研修・成果発表会と、3月13日に行われた日本語教育学会関西支部集会の「交流のひろば」にてオンライン留学前準備コースを公開し、評価とコメントを募った。地域リソースを活かした動画に関する高評価と前向きなコメントと、動画作成に関する様々なアドバイスをいただいた。また成果発表会の事前アンケートで「地域リソースを授業で使ったことがあるか」という問いに対して、約35%の教師が「使用したことがない」と答えていたこともあり(図5参照)、参加した教師間で、そ

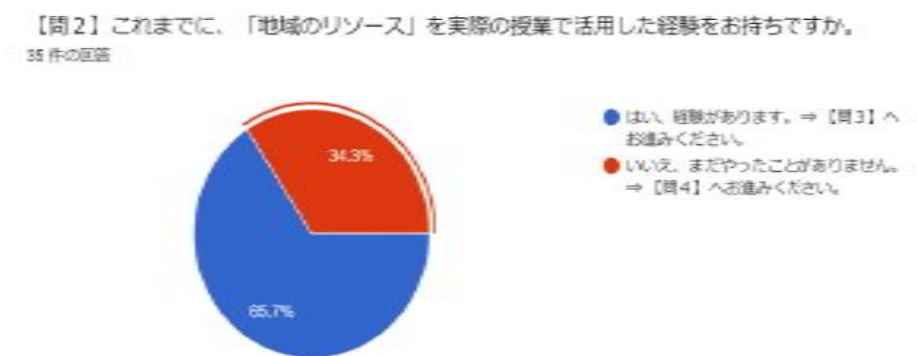


図5 地域リソースの使用経験

それぞれの教育機関での地域リソースを活用した取り組みについてアイデアを共有する時間を設けた。成果発表会の参加者は大学で日本語を教えている教師だけでなく、日本語学校や地域の日本語教室のボランティア、海外で日本語教育に携わっている日本語教師など多様であった。そのように多様なバックグラウンドを持つ人々と、様々な取り組みについてのアイデアの共有や意見交換の場があったことについて、多くの参加者がとてもよかったと感じていることが事後アンケートからも明らかである(図6参照)。

3) このイベントに参加してどのようにお感じにな...エックマークを入れてください。(複数回答可)

53 件の回答

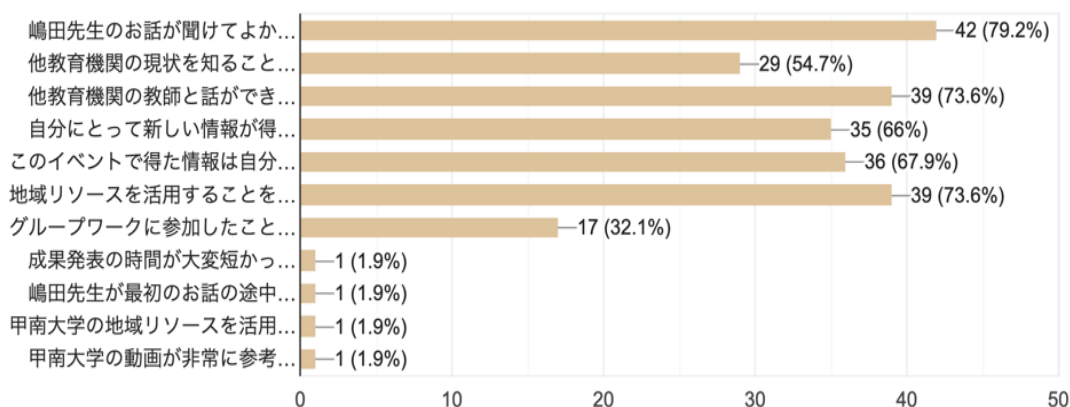


図6 「新しい留学プログラム in 神戸」教師研修・成果発表会の感想

支部集会でも成果発表会でも、コロナ禍において日本語を学ぶ学生たちの学習動機の維持や、留学したいという気持ちを高めるための取り組み、また教育機関の所在地である地域や、そこに住む人々との交流を重視した留学プログラム構築の提案ができたと思われる。

成果発表会に参加した教師の中からインタビュー調査への協力者を募り、協力者にこれまでに地域リソースを用いた取り組みを行っていたか、行っていた場合にはその内容を、行っていなかった場合にはその理由を尋ねた。このインタビュー調査から、地域リソースの利用には教師だけでなく、教育機関の協力が欠かせないこと、コロナ禍収束後の滞在型留学で地域社会との交流を行う際に直面するであろう感染対策等の課題が見えてきた。またインタビュー調査を通して、地域リソースを生かした取り組みの具体例として、フォトロゲイニングを取り入れた活動や、ヒューマンライブラリーという手法を用いた地域住民と留学生を繋ぐ取り組みなどについて詳しく知ることができた。これらの課題を活かし、作成したオンライン留学準備コースのさらなる改善、またコロナ禍収束後にはフォトロゲイニングやヒューマンライブラリーといった手法を生かした地域リソースの活用に向けての取り組みを考案していくことにする。

謝辞

本研究の実施にあたり、ご協力いただきました神戸国際大学教学センター室長小林哲也様、また一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸中水かおる様に感謝申し上げます。

<引用文献>

- 佐々木幸喜・河合敦子(2019)「オンラインによる渡日前準備学習—留学生活への円滑な移行を目指して—」『留学生交流・指導研究』Vol.22、pp.49-60
- 島崎薫・三島敦子他(2017)「東北大学における留学前日本語準備プログラムの実践報告-オンサイトとオンラインでの試行をもとに-」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』3 巻、pp.239-252
- 田中望・斎藤里美(1993)『日本語教育の理論と実践-学習支援システムの開発-』大衆館書店
- トムソン木下千尋(1997)「海外の日本語教育におけるリソースの活用」『世界の日本語教育』Vol.7、pp.17-29
- 森川結花(2021)「来日前の学習者を対象にした動画教材作成の試み-地域リソースを利用したコンテンツの開発-」『甲南大学教育学習支援センター紀要』第6号、pp.109-126
- Murphey, T (1998) “Motivating with Near Peer Role Models” *JALT’97: Trends & Transition*, pp.201-206

ⁱ 神戸市役所ウェブサイト <https://www.city.kobe.lg.jp/a05822/shise/kekaku/kikakuchosekyoku/college/press/933403545694.html>
(2020年6月20日閲覧)